

2023年1月17日

会 員 各 位

公 益 事 業 学 会  
会 長 水 谷 文 俊

## 2023年度（第73回）大会報告者の募集

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、当学会は2023年度（第73回）大会を2023年6月10日（土）、11日（日）の日程で大阪公立大学杉本キャンパス（大阪市住吉区）にて開催する予定です。報告形式は統一論題【**老朽化インフラの更新と公益事業**】および自由論題です。

つきましては、報告のご希望がございましたら、申込用紙にご記入のうえ下記要領にて事務局までお送りくださいますようお願い申し上げます（申込用紙は当学会ホームページ<https://www.jspu-koeki.jp/>からも入手可能です）。

なお、報告応募用紙提出後の報告論題の変更は、開催校の負担となりますのでお控えください。

### 記

申込期限：2023年1月31日（火）午後5時（必着）

申込資格：上記時点で2022年度までの会費完納の正会員  
および特別会員に所属する者

申込方法：郵送・ファクシミリ・Eメール

採否、統一・自由論題の別等に関してはプログラム委員会で検討し、後日その結果をお知らせいたします。大会プログラム案については、2023年4月中旬を目途に、学会ホームページに掲載いたします。報告者には2023年4月15日までに予稿を別途提出していただくこととなりますので、あらかじめお含みおき願います。 敬 具

【連絡先】公益事業学会事務局

〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町2-14-10

アーバンネット日本橋ビル

株式会社 情報通信総合研究所内

TEL・FAX：03-3663-8201

E-mail：koeki@icr.co.jp

## 公益事業学会 第73回大会

開催場所： 大阪公立大学杉本キャンパス（大阪市住吉区）

日 程： 2023年6月10日（土）・11日（日）

統一論題： 老朽化インフラの更新と公益事業

### 老朽化インフラの更新と公益事業

2021年10月和歌山市内「六十谷水道橋」の一部が落下し、水道管が破損して6万世帯の水が止まった。2022年7月15日に大雨の影響で仙台市青葉区の水道管が破裂し漏水により、2万世帯以上で断水や濁った水が出る状態が続いた。

他方で、鉄道では、地方鉄道を中心に事業者単独での維持が困難な状況にあると、交通政策審議会の鉄道部会が2008年に緊急提言を取りまとめているが、その範囲はさらに拡大しつつある。電力では再生可能エネルギーの普及の結果、老朽化した火力発電の廃止が進み脱炭素社会に向かっているように思えたものの、ロシアによるウクライナ侵攻という事態に休止老朽火力の再稼働が計画されている。

高速道路では、現在の償還計画には含まれていない、構造物の一部を更新する工事や新たな損傷の発生を抑制する補強工事などを行う大規模な修繕や、経年による材料劣化や浸水による腐食、大型車の繰り返し走行による疲労等により複合的な損傷が発生し補強が極めて困難な構造物や、想定外のクリープ変形が継続進行する構造物など、構造上、維持管理上の問題を有する構造物について構造物を全体的に作り替える大規模更新の必要が主張される。

公共事業においては、2012年12月中央高速自動車道笹子トンネルの天井板落下事故のあと、対応が検討されてきた。道路の老朽化では、本来ミッシングリンクという道路が途中で途切れている未整備区間を指す用語を応用して、老朽化等によって既存の道路を車両や人が安全に通行することができなくなり、これまでの利便性が失われる状況を「ミッシングリンク」と捉えて議論されている。

こうした公共事業の状況とは、「荒廃するアメリカ」から30年遅れての「つじつま合わせによる公共投資削減」の状況が生んだ「荒廃する日本」であると指摘する研究がある。

現在、これまでの事後補修から予防補修を重視する考え方へと変化してきている。その際、インフラを「いかに維持するか」という対症療法的な議論ではなく、将来の地域の姿をイメージし、それにふさわしいインフラを思い描くことが求められよう。

公益事業は、公共事業とは異なって事業運営する企業体である。2016年、立正大学で開催された全国大会では、統一論題として「公益事業の持続可能性」を議論している。今回の統一論題では、2016年大会の議論を踏まえ、事業運営する公益事業の特徴を意識しつつ、例えば高速道路、水道、鉄道、電気・ガスなどに注目して、老朽化インフラを抱えた現状を、どのようにすれば将来のあり方をイメージした、持続可能な公益事業へと変え得るのかを議論したい。